

第16回「女性作家を読む」研究会

日時：2011年9月24日（土）14時～17時

場所：慶應義塾大学・日吉キャンパス・来往舎2階会議室

<http://www.keio.ac.jp/ja/access/hiyoshi.html>

講演：ドラ・トーザン氏「日仏比較：女性・家族・少子化問題をめぐって」

主催：日仏女性研究学会「女性作家を読む」研究会

：慶應義塾大学「現代フランス社会と女性」研究会

使用言語：原則としてフランス語・日本語も可

(I) 講演 D・トーザン氏「日仏比較：女性・家族・少子化問題」 2pm-3:30pm

数年前まで日本と同じ少子化問題を抱えていたフランスが現在では類をみないベビーブームを迎えている。フランスの出生率は世界でトップの位置を誇っている。「働く女性ほど子供を産む」「主婦が消えて子供が増える」「嫡子と婚外子の権利は平等」等々のキーワードが踊るフランス。その要因はどこにあるのか。日本とフランスを往復しフレンチ・パラドックスを知り尽くした講演者ドラ・トーザン氏が、フランス人ジャーナリストの視点から日本の女性や男性たちに恋愛・結婚・出産・子育てに関する提言をする。

参考著書：ドラ・トーザン著『ママより女』小学館 2011年3月

(II) ディスカッション：「女性作家の使命・読者の役割」 3:45pm-5pm

平塚雷鳥が「元始、女性は太陽であった」と女性の自立と自由を唱え、日本初の女性文芸誌『青鞥』を創刊したのは今から100年前のことである。確かにこの1世紀の間に女性の地位は改善され、女性たちは自由になった。しかし、女性の貧困解消、経済的自立や男性と同等の昇進は達成されず、議員や大臣、要職を占める女性の数は未だ欧米やアジア諸国の水準に及ばぬ女性後進国のままである。凄惨な歴史的な大震災から半年の時が経過した現在、3.11は女性たちの生き方をどのように変えたのだろうか。日本の女性を取り巻く現実を直前にして、女性作家が果たすべき役割とは何か。読者は女性作家に何を期待するのだろうか。以上のような切り口を手掛かりに、トーザン氏を交え参加者の間で自由な討論をおこないたいと思います。

講演者紹介：ドラ・トーザン氏 Dora Tauzin

国際ジャーナリスト。エッセイスト。ソルボンヌ大学応用外国語修士号、パリ政治学院卒業。国連広報部勤務後、NHK テレビ「フランス語会話」に5年に渡って出演。慶應義塾大学講師などを経て、現在は東京日仏学院、アカデミー・デュ・ヴァンなどの講師。新聞（朝日、東京）、雑誌への執筆、講演、イベントの司会、テレビ番組のコメンテーター、レポーターなど各方面で活躍中。著書多数。文化庁「文化発信戦略に関する懇親会」委員。文化庁より長官表彰。

参加ご希望の方は、メールにてお早めに西尾治子（企画運営担当）までお申し込みください。

メールアドレス：coquelicot_hj2004@yahoo.co.jp

日吉キャンパス・来往舎ご案内：

東急日吉駅改札口を出て右に。信号を渡り銀杏並木をまっすぐに進むと左手角に赤いポストがあります。ポストから見て斜め右手のガラス張りの大きな建物が来往舎です。

(下図10番)



<http://www.keio.ac.jp/ja/access/hiyoshi.html>

- 住所 〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1
- 交通アクセス・東急東横線、東急目黒線・横浜市営地下鉄グリーンライン
日吉駅下車、徒歩1分
※東急東横線の特急は日吉駅に停車しません。※渋谷～日吉：25分(急行約20分)
※横浜～日吉：20分(急行約15分) ※新横浜～菊名～日吉：20分